

# 社会科 (歴史的分野) 学習指導案

## 1 単元名 「第一次世界大戦と日本」

### 2 単元について

#### (1) 単元観

本単元では、学習指導要領の内容「C(1)近代の日本と世界」「(オ)第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現」に対応し、設定している。ここでは、「第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解する」ことが求められている。そのため本単元では、これまでにないほど多くの国々が関わってくることから、資料の読み取りを通して、それぞれの国の事情に合わせて、第一次世界大戦の勃発やその後の革命、民族運動、国際協調への移り変わりをとらえることができるようにしている。

この時代は、植民地の獲得競争の末、欧州各国は権益の保護のため、同盟を重ね保険をかけてきた。そのような中、サラエボ事件をきっかけに瞬く間に戦火がわずかな国を除き、欧州全土に広がり、近世から続く王政・王朝は終焉期を迎えることとなった。イギリスのビクトリア女王の親族の血縁として、ロシアでは帝政が布かれていたが、この戦争の失政によって、廃位が進み、共産主義や民主主義が大衆に広がっていったのである。ヨーロッパではレーニンが、アジアでは清王朝の終焉に孫文が現れ、指導者たちのもと革命の機運が広がり、日本社会も共産主義の認識と、その抑え込みのシベリア出兵によって大きな影響を受けた。ヨーロッパの混乱は、産業革命創始国という経済大国イギリスを世界一の座から引きずり落とし、新たにアメリカという資本主義大国の登場を招いた。大戦の勝者であり、債権国であるアメリカのウィルソン大統領がベルサイユ会議を主導しようとするが、あまりにも大きすぎる負債をドイツに負わせたことが戦勝国に対する不満となり後々のヒトラー登場への種火になってしまう。また、国際連盟の設立を語るも、国内の議会で承認されなかったアメリカとまだ国際社会に認められなかったソ連が国連に加盟しなかったことも後に第二次世界大戦開戦に影響を残すことになる。ウィルソンの「民族自決」を基に、アジアの中国、韓国でも独立の機運が高まった。しかし、民族自決の理念がヨーロッパ民族の自決にしか適用されず、アジアやアフリカなどは、欧米の植民地のままであったことから欧米各国にとって関心のうすい出来事であったが、日本の植民地支配への抵抗的な民族運動の高まりという点では無視できない。世界大戦の前後の出来事が、二度目の世界大戦につながっていくことを生徒たちに考えさせるためにも、この単元で理解させたい。

特に第一次世界大戦は人類史上類を見ないほどの多くの犠牲者を出した大戦である。その背景には、「総力戦」が関わってくる。ざんごう戦による機関銃の大量使用、戦車や飛行機の軍事的活用、さらには毒ガス等による大量殺戮が可能になった。実際に、第一次世界大戦における戦争の凄惨さについて、主な

参戦国であるヨーロッパの国々の死者数を見ると、フランス・ロシア・ドイツ・オーストリアでは100万人以上が犠牲となり、イギリスやイタリアなどその他の欧米列強国でも50万人以上が犠牲となるなど、戦勝国、敗戦国問わず、大量な犠牲を払っている事実に生徒は驚きをうける。参戦国の中には、オーストラリアやインドなどアジアの国々も関わっていた。それらの国々は欧米列強国にとって植民地であり、望まなくても列強国の侵略に加担しなければならなかった。

アジアの参戦国には日本も入っている。なぜ、わざわざ遠く離れたヨーロッパの地で起きた第一次世界大戦に参戦しているのだろうか。ここに日本がそれまで経験してきた戦争との大きな違いが隠されている。日本の第一次世界大戦参加のきっかけは日英同盟にあったといわれている。日英同盟の第2条、第3条にはそれぞれ「イギリスと日本の一方が他国と交戦した場合、もう一方は中立を守ること」「ただし、第三国が相手側として参戦してきた場合には、もう一方は中立ではなく参戦すること」とある。第一次世界大戦は、三国協商と三国同盟の対立から始まっていることを考えると、日本の参戦は日英同盟第3条によって決まったことがいえる。このように、第一次世界大戦をきっかけに、世界中の国々が「同盟関係を結んだ」事実が今までとの大きな違いになる。同盟関係にあった国同士が次々に参戦し、規模が大きくなったことで戦争による影響力が大きくなった。戦勝国となれば、自国の領土を広げられ、軍事力も経済力も拡大でき、より強国になれる。

そのなかで、世界規模で影響力が大きくなった第一次世界大戦に参戦した日本は圧倒的に死者数が少ない。イギリスは日本に対して、中国の膠州湾の青島を拠点としたドイツの東洋艦隊によって自国の商戦が脅かされていたことからドイツ艦隊を撃破してほしいと依頼をしていた。イギリスは日本に支援要請をした程度で、参戦までは望んでいなかった。しかし、日英同盟を口実に参戦の大義名分を得た日本は中国侵略を始める。三国干渉で日本が手にしたはずの山東半島をドイツにとられたことから、ドイツにリベンジするチャンスととらえていたかもしれない。このように、日本の主戦場がヨーロッパではなく、中国であったことが日本の死者数の少なさに影響を与えている。また、日本は中国に対して「二十一か条の要求」を出している。要求の内容は、中国国内にあるドイツの権益を日本に譲ること、旅順や大連、鉄道の権利を99か年延長することなどが書かれている。日本は同盟関係による参戦を利用し、中国への侵略を進めることで、ヨーロッパ列強国同様に軍事力や経済力を手に入れようとした。このことから「領土的野心」が、欧米列強国」同様、日本にもあったことがわかる。日本の第一次世界大戦の参戦から、今までの戦争との違いをとらえ、同盟関係による戦争への影響力の大きさを学習する。この大戦によって、日本には大戦景気がやってきて工業国としての基礎が築かれたこと、大正デモクラシーや女性の社会進出、普通選挙の実現など、人々が権利を求め行動を起こすなど、大きな変化があった。また、世界では、アジアで民族運動が起き、ロシア革命が起きるなど「民族自決」のもと民衆が立ち上がった。そして国連連盟の発足によって平和への動きが加速し、目まぐるしく変化する様子をとらえさせたい。

第一時では、ヨーロッパの国々が同盟を結び、「武装した平和」状態となったこと、民族の対立が国同士の戦争に発展したこと、新兵器の登場によって誰もが大量かつ簡単に殺戮を行うことができるようになったことを資料や写真をもとにとらえさ、第一次世界大戦勃発の背景を考える。

第二時では、「二十一か条の要求」の資料をもとに日本には「領土的野心」があったこと、日英同盟を口実に参戦への大義名分を手にしたことに、話し合い活動や資料の読み取りを通して考えさせる。また、前時の背景をもとに、日本の第一次世界大戦の参戦理由を考え、第一次世界大戦の特色をとらえさせる。

第三時では、前時の学習を経て、二十一か条の要求が中国国民の不満を高めたこと、民族自決の広がり

が朝鮮国内で三・一独立運動を引き起こしたことなどアジアでの民族運動の高まりをとらえさせる。日本にもなじみ深い領国が反日感情を抱く理由を考察させる。

第四時では、連合国側の勝利で終わった第一次世界大戦のあと、世界の国々や社会が起こした変化を考える。国際連盟の発足、ベルサイユ条約やワシントン会議など、表向きは世界が軍備縮小に動き、国際協調へと向かっていった様子をとらえさせたい。

第五時では、第一次世界大戦で行われた総力戦が世界各国にどのような影響を与えていったのかを具体的にみる。ロシア革命による社会主義の誕生、日本と欧米列強国が社会主義の拡大を恐れてシベリア出兵を行ったこと、干渉戦争に勝ったロシアが新たにソビエト社会主義共和国連邦を成立させたことから、国際社会にも新たな動きが出てきたことをとらえさせる。

第六時は単元のまとめとして、これまでの学習内容をふまえて、第一次世界大戦下の時代的特色をとらえさせる。第一次世界大戦が勃発し、その結果、革命や民族運動を起こした国もある。また、総力戦によって疲弊した国々の状況をふまえ、国際協調の時代へと発展していった。このように世界全体で新たに人々の権利や平和を求める動きが活発化したことをまとめ、本単元の学習を終える。

## (2) 生徒の実態

3年3組 30名 (男子17名 女子13名)

### 【学習場面についてのアンケート】

歴史を学ぶことと資料の読み取りに関して、生徒にアンケートを行った。資料の読み取りについて「大切か」「好きか」を「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階で回答した。それを集計し、%を単位としてまとめた。

Q1: 『歴史を勉強することは好きですか?』

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
16	53	27	3

Q2: 『図や表、グラフ、資料の読み取りは大切だと思いますか?』

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
30	60	10	0

Q3: 『図や表、グラフ、資料の読み取りは好きですか?』

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
3	27	60	10

Q4: 『資料から読み取ったことについて、理由や原因を考えることは大切だと思いますか?』

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
33	60	7	0

Q5： 『資料から読み取ったことについて、理由や原因を考えることは好きですか？』

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
17	43	33	7

過半数を超える生徒が歴史を学習することが好きであることから興味・関心をもって取り組んでいる生徒が多い。資料の読み取りと、理由や原因の考察についても9割を超える生徒が「大切だ」と認識しているが、「好きか」と問われると、そうではない生徒が多くなっていることがわかる。自由記述欄には「何が原因で、その結果どうなったのかを自分の力で考えるのは楽しい」「理由を考えて、その人たちが何を思っていたのかを考えることが楽しいと思う」といった肯定的な意見もあれば、「考えるのことがそもそも苦手」「正直、めんどくさい」「不得意だから」といった意見もあった。生徒は、資料の読み取りの大切さを頭では理解していても、どのように読み取ればいいのか、何を書けばいいのかといった技能的な部分がまだ足りていない。

本単元では、戦争の凄惨さを伝えるグラフや表、社会の変化をとらえる写真やイラストが教科書に多く掲載されている。これらの読み取りを少人数での話し合いを通してまとめる活動を多く取り入れる。一人ではどのように読み取ればいいのか分からない生徒にとっても、級友の意見を聞くことで、資料を読み取るポイントを押さえられるよう、どこに注目して考えればいいのかヒントを与えるなどの工夫をしながら活動に取り組ませたい。特に、社会の変化は、想像や文字認識だけではとらえづらいことが考えられる。本単元を通して、社会の変化、時代の特色を視覚的にとらえるためにグラフや表、写真やイラストを使って考えることに重点をおきたい。資料の読み取りは歴史的事象の背景や原因を考えるうえで必要な力になると同時に、自分で考えることで、疑問や発見、新しいとらえ方を抱くことができる。写真やイラストの読み取りに関しては、人々の表情や様子に注目させながら社会の変化をとらえさせる。本時では、条約の内容と地図との照らし合わせによる読み取りがあるため、生徒がより具体的に学習内容をとらえられるよう資料内に印をつけるなど、分かりやすい展開を心がける。

【戦争に関する生徒たちの意識についてのアンケート】

戦争について、生徒が何を思うかアンケートを行った。生徒は質問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階で回答した。それを集計し、%を単位としてまとめた。

Q6： 『戦争は兵士だけでなく多くの人が犠牲になると思う』

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
77	20	3	0

Q7： 『戦争は多くの人が犠牲になるのでよくないことだと思う』

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
60	37	3	0

Q8： 『戦争は多くの人々が犠牲になるというマイナスな面以外もあると思う』

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
30	57	10	3

Q9： 『戦争が起きると世界（世の中）に変化が起きると思いますか？』

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
67	13	20	0

Q10： 『第一次世界大戦を知っていますか？』

はい	いいえ
37	63

生徒はこれまでの学習や経験上、戦争は多くの犠牲が生まれ、よくないことだと思っている。ただ一方で、戦争が「マイナスな面」以外にも影響を与えていると答えている生徒もいる。自由記述欄には「国の優劣が変わる」「戦勝国は多くの富を得る」「医療や産業が発達する」などの意見が見られ、国の経済面、産業での変化を考えられている。全体的に、戦争に対する見方がまだまだ一面的で知識習得にとどまっている様子が見られる。

本単元では、第一次世界大戦や国際協調の時代を経た社会の変化をとらえさせたいことを考えると、生徒の予想通りに展開が進む可能性がある。そこで、社会が「どのように」変化をしていくのかという中身を深めていく。生徒の認識について、実施前は「食料が少なくなる」「貧富の差が生まれる」など、これまでの学習を生かしているものの、表面的にしかとらえられていない。「食料が少なくなった結果、何が起こったのか」、「貧富の差が生まれた結果、人々はどのような行動を行ったのか」など、本単元を実施することでより具体的に社会の変化をとらえられるようにしたい。そうすることで戦争が起きた結果における社会の変化を広い視野でとらえる力を身に付けさせる。

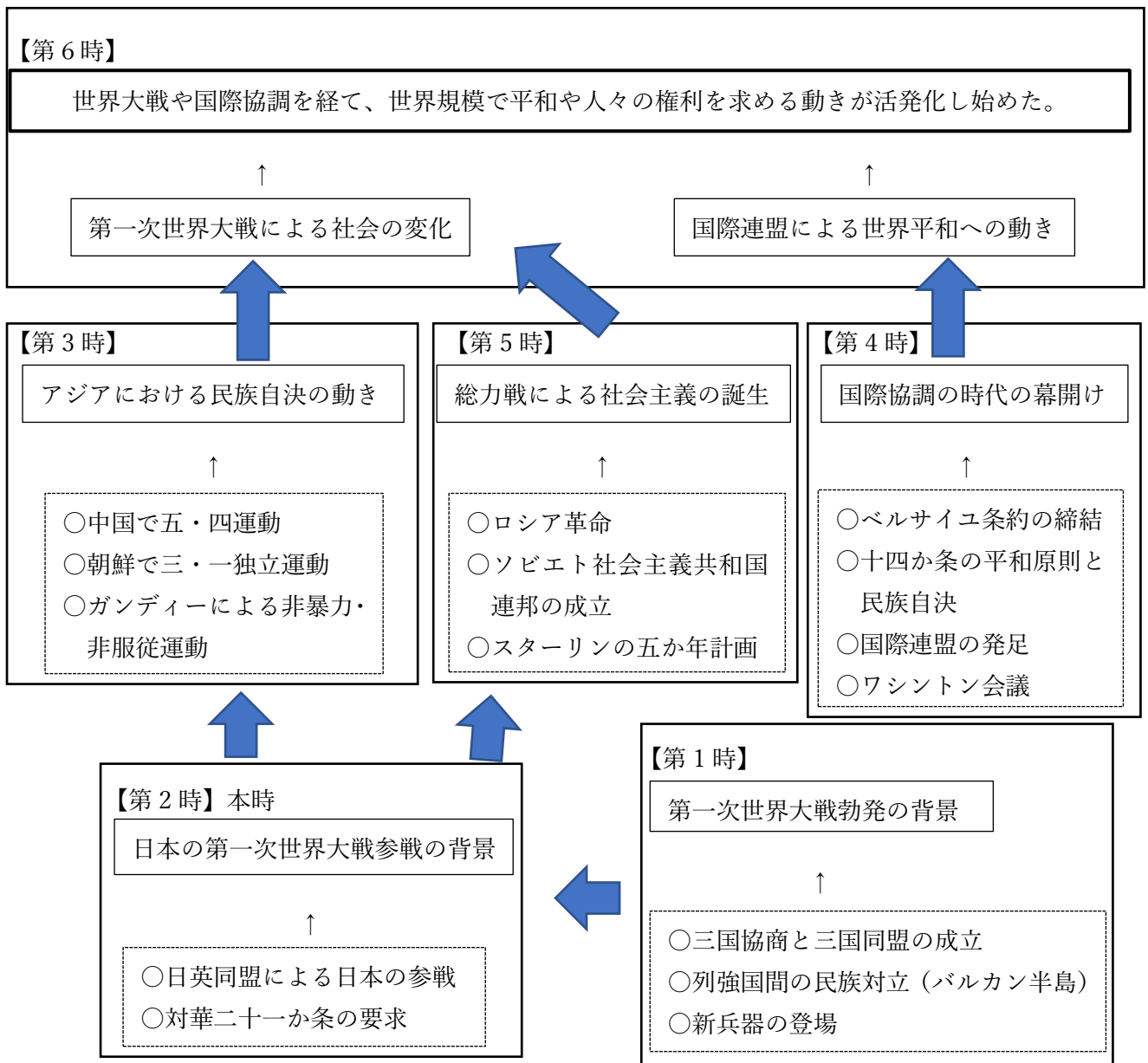
### (3) 本校社会科研究主題との関わり

本校の研究主題は「社会科の学習を通して人権意識を高める指導の在り方」であるが、本単元を通して、戦争の戦力として扱われていた人々が、アイデンティティーの確立を目指したこと、人としての権利を求めて民族運動を起こしたことなど、大戦による人々の意識の変化にも触れることによって、人が人らしく生きるために何ができるのかという人権思想が高まると考えられる。

### 3 単元の目標

- ・第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりや国際協調の動きをもとに、第一次世界大戦前後の国際情勢や日本の動き、大戦後の国際平和への努力がなされたことを各国の現状から分析する。
- ・戦争の戦力として扱われていた人々に、アイデンティティーの確立がすすみ、人としての権利を求めて民族運動を起こすなどの社会の変化を考察する。
- ・戦争による社会の変化はどのようなことがおこるのか。ヨーロッパやアジアで何があったのかを考察し、表現する。

### 4 思考の深化に対応した単元の指導計画



## 5 本時

### (1) 本時の目標

- ・資料から日本と第一次世界大戦の関わりについて、読み取ることができる。
- ・日本の参戦理由や目的から、第一次世界大戦の特色を考察する。

### (2) 本時の「主体的な学び」

#### ①「第一次世界大戦の参戦国リスト」 出典：

第一次世界大戦の参加国一覧	
( )	その他
イギリス	トルコ
フランス	アメリカ
ロシア	日本
セルビア	オーストラリア
イタリア	インド
ドイツ	
オーストリア	

本資料は、第一次世界大戦における参戦国が具体的に記されている。ここでは教科書に載っていない「オーストラリア」や「インド」といったアジアの国も参戦していることに注目させたい。本単元の一時間目ですでに第一次世界大戦の主戦場がヨーロッパであったことは学習していることから、アジアの国々が第一次世界大戦になぜ参戦しているのかを考えさせる資料として活用する。一つ一つの国の位置について掛け図を利用して、確認していくことで視覚的にもとらえやすくする。オーストラリアやインドがこの当時、欧米列強国にとってどのような場所であったかを問い、植民地だったことを引き出す。植民地は欧米列強国によって支配されていることから、望まなくても参戦しなければならなかったことは生徒にとっても考えやすいところだろう。しかし日本は、オーストラリアやインドとは違い、この当時、欧米列強の植民地ではなかった。それならば、なぜ日本は第一次世界大戦に参戦したのだろうか。その目的は何なのだろうか。本資料を生徒に提示し、その違いを考えさせることで欧米列強の植民地ではなかったはずの日本がなぜわざわざ遠く離れたヨーロッパの地で始まった第一次世界大戦に参戦しているのかについて疑問をもつきっかけになり、学習課題につなげることができる。

#### ②日英同盟の条文（要約） 出典：

- 第1条 イギリスの中国での利権と日本の中国・韓国での利権を互いに認める。
- 第2条 条約を結んでいるイギリスと日本のどちらかが他国と戦っているとき、戦っていない方は、中立を維持する。
- 第3条 ただし、ほかの国が相手側として戦いに加わってきたときは、戦っていなかった（イギリスか日本）方も参戦し、ともに戦うこと。

教科書によると日本が第一次世界大戦に参戦した理由として「日英同盟」があげられている。しかし、生徒たちにとって日英同盟とは「国同士の利害の一致」という認識が強く、その内容までは踏み込んで学習をしていない。なぜ、同盟を組むことで遠く離れたヨーロッパの地で行われている大戦に参戦しなければならないのかを資料を通して考えさせたい。また近現代史は戦争と条約が数多く登場することからも、これを機に同盟や条約の内容について関心をもたせたい。資料は要約文であるため、自らの力で取り組みやすく、日本が第一次世界大戦に参戦した理由がより具体的にとらえられることが予想される。また、同盟の内容から改めて、第一次世界大戦における国同士の対立や協力関係を復習できるなど、基礎・基本の定着を図る本校の生徒にとっては必要性の高い資料だと考える。

### (3) 本時の「対話的な学び」

#### ①教科書 p.204 資料 2 「二十一か条の要求に関連する権益」

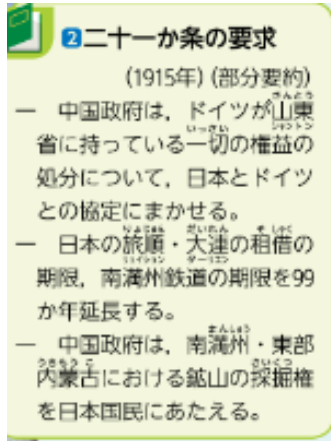


本資料は、二十一か条の要求の内容を視覚的にとらえることができる。本資料を用いて、第一次世界大戦における日本の勢力範囲を確認する。ヨーロッパを舞台に始まった第一次世界大戦でなぜ日本は中国に目をつけているのか。日本の「領土的野心」が隠されていることをつかませる。そこで、本時では教科書 p.204 資料 3 「二十一か条の要求」と照らし合わせながら、要求の内容と目的を考えさせたい。まずは、中国の山東省（山東半島近く）にある青島に注目させる。青島には膠州湾という良港があることを伝えたい。港を獲得する目的を考えさせる。また、三国干渉後にドイツが膠州湾を手に入れている事実から、ドイツに対してリベンジしたい思いがあったのではないかとこのところまで考えが深まるようにしたい。イギリス船が膠州湾を拠点とするドイツ軍艦に攻撃されていたことから両国の関係は良くはなかったこと、イギリスからの支援要請があった事実から、どうしてイギリスは日本に支援要請をしたのかを考えることで、「日英同盟」へとつなげたい。また、南満州鉄道の線路沿いに鉱山が広がっていることに注目させる。鉱山で取れた鉄鉱石や石炭を鉄道で運搬することで資源を効率的に手に入れやすくなった。それらの資源がエネルギー源として使われ、鉄を使って鉄道の拡大や軍備増強を図っていたことをふまえて、期限を99か年に延長した日本の目的を考えさせる。これらをもとに日本



が第一次世界大戦に参戦した目的には「領土的野心」が隠されていたこと、またそのきっかけには、今までの戦争にはなかった「同盟関係」が大きく関わっていることに気づかせたい。

②教科書 p.204 資料3 「二十一か条の要求」



本資料は、日本が第一次世界大戦中に中国に出した「二十一か条の要求」の部分要約である。本資料の読み取りから、生徒にはそれぞれの要求の目的を考えさせたい。山東省には青島という良港がある。国にとって港を拠点にできたときの商業権益は大きい。国の経済的な発展、領土を広げることによる軍事的な発展を進めるためにも港をおさえることは当時の戦略上必須条件だったと考えられる。また、三国干渉によって日本はドイツに山東半島を奪われた。このことから、日本がドイツに対して対抗心を持っていたことに気づかせ、山東省の青島を獲得しようとした理由の考察を深めたい。当時の日本が中華民国に対して抱えていた外交問題は満州にある旅順・大連、そして満鉄を含む一部の鉄道の租借期限が1923年に迫っていることであった。日本は鉄道を中心に炭鉱の開発、製鉄所の建設を進めてきた。その目的には、資源の獲得、鉄道の建設や軍備増強が考えられる。その権利をみすみす手放したくない日本にとって、山東半島の占領は期限を延長する大きなチャンスであり、欧米列強国と立場的に肩をならべるためには何としても達成したい条件であっただろう。日本が出した要求の目的を考えることで日本の立場から「領土的野心」を掲げ、軍事力・経済力ともに拡大していこうとする当時の戦争の在り方を考えるきっかけにしたい。

(4) 本時の展開 (2/6)

時配	学習内容と活動	留意点 (○) 及び評価 (◇)
導入 (5分)	・「第一次世界大戦の参戦国リスト」から、参加国をみて、ワークシートに取り組む。	○ワークシートを配布し、掛図で国の位置を確認しながら、ワークシートの( )に当てはまるものを考えさせる。  主体的①

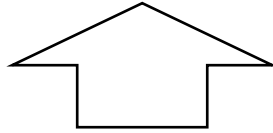
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ以外の国が参戦していることに気づき、理由を考える。 (予想される生徒の反応)</li> <li>・欧米列強国の植民地だったから</li> <li>・日本は欧米列強国の植民地ではなかったのに参戦していることに気づく。</li> </ul>	<p>○主戦場はヨーロッパであったことを振り返らせる。</p> <p>○遠く離れたヨーロッパで起きている戦争にわざわざ日本が参戦しているのはなぜなのかを問い、学習課題を提示する。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p><b>【学習課題】</b> なぜ日本は第一次世界大戦に参戦したのだろうか？</p> </div>	
<p>展開 (35分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 p.204 の資料 2 を用い、第一次世界大戦を経て、日本の勢力範囲が中国に広がっていることに気づく。</li> </ul>	
<p>話し合い (8/35分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 p.204 の資料 2, 3 を照らし合わせながら、要求内容を視覚的に確認する。</li> <li>・同資料をもとに、日本が「二十一か条の要求」を中国に出した目的を話し合い、考える。 (予想される生徒の反応)</li> <li>・港を拠点に貿易ができる。</li> <li>・港から国に入って侵略を進められる。</li> <li>・ドイツに対する対抗心があった。</li> <li>・中国内の資源を使って、さらに強国になったかった。</li> <li>・要求内容をふまえて、イギリスが日本に対して支援要請をしていたことを知る。</li> </ul>	<p>○教科書資料 3 に書かれている地名または鉱山に印をつける。</p> <p>○青島(港)を獲得する目的、三国干渉によるドイツと日本の関係、鉄道の利権期間の延長、鉱山の利用についてグループで考えさせる。</p> <p>○日本の領土的野心に気づかせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">対話的①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">対話的②</div> <p>◇二十一か条の要求における日本の目的を資料の読み取りを通して具体的に考えられている。</p> <p>○イギリス船が、膠州湾を拠点としているドイツ軍艦に攻められていたことを受け日本に対して支援要請をしたこと</p>

<p>まとめ (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 p.199 本文を使って、イギリスが日本に支援要請をした理由を探す。 (予想される生徒の反応)</li> <li>・日英同盟を結んでいたから。</li>   <li>・ワークシートの資料を用い、支援要請を受けた日本はどの条文をもとに参戦の大義名分を得たのかを考える。</li>   <li>・前時の学習内容より、ヨーロッパの国々も同盟関係を結んで、大戦が始まったことを振り返る。</li>   <li>・日本の参戦理由と目的をまとめ、それらを踏まえたうえで第一次世界大戦の特色を自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<p>を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日英同盟が日本の第一次世界大戦参戦のきっかけになっていることに気づかせる。</li>   <li>○ワークシートの資料内に線を引かせるなど印をつけさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">       主体的②     </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの戦争との違いであり、この時代の特色であることに気付かせる。</li>   <li>◇日本が第一次世界大戦に参戦した理由を本時の学習内容を使いながら、自らの考えをまとめられている。また、前時の内容もふまえながら、第一次世界大戦の特色を国々の領土的野心や同盟関係をもとにまとめられている。</li> </ul>
----------------------	---	---

## 7 思考の構造図

### 【事実に認識の第3段階】

- ・ 世界大戦や国際協調を経て、世界規模で平和や人々の権利を求める動きが活発化し始めた。



### 【事実に認識の第1・第2段階】

- A 第一次世界大戦による社会の変化
  - a アジアでの民族運動
    - ・ 五・四運動
    - ・ 三・一独立運動
    - ・ 非暴力・非服従運動
  - b 国際協調体制の成立
    - ・ 国際連盟の発足
    - ・ ベルサイユ条約
    - ・ ワシントン会議
  - c 社会主義の誕生
    - ・ ロシア革命
    - ・ シベリア出兵
    - ・ ソ連の成立
    - ・ 五か年計画
- B 日本の第一次世界大戦参戦の背景
  - a 対華二十一か条の要求による日本の領土的野心
  - b 日英同盟をきっかけとした日本の参戦